

新たな長居障がい者スポーツセンター（仮称）整備基本計画 [概要版]

第1章 基本計画の策定に当たって

■ これまでの経過と基本計画の策定の目的

- 大阪市では、昭和49年に全国初の障がい者スポーツセンターとして、長居障がい者スポーツセンターを開設し、平成9年に開設した舞洲障がい者スポーツセンターとともに、障がい者スポーツ振興を通じた障がい者の自立と社会参加の促進に重要な役割を果たしています。
- 令和3年11月の戦略会議において建替えなどの方向性を決定し、令和5年3月には、建替え後の「新たな長居障がい者スポーツセンター（仮称）」の基本理念・コンセプト、建築計画等の基本的な考え方を取りまとめた「基本構想」を策定しました。
- 基本構想で示した基本的な考え方をより具体化することを目的として、基本計画を策定し、施設整備の詳細や概算事業費等を取りまとめ、設計と条件を設定します。

■ 整備・運営の基本方針

- 新たな長居障がい者スポーツセンター（仮称）は、これまで長居障がい者スポーツセンター、早川福祉会館が果たしてきた役割のもと、複合化による機能強化を図り、障がいのある人が安心かつ継続してスポーツやレクリエーション、点字図書等の読書を含む文化活動を楽しむ事ができる施設をめざします。
- また、様々なささえる活動を担う人材を育成し、身近な地域での自主的な活動を推進するハブとしての役割のほか、障がい者専用のスポーツ施設としての運営を重視しつつ、交流の促進など、共生社会やゼロカーボンおおさかの実現、SDGsの達成に貢献する施設をめざします。



基本理念

みんながたのしみ、つながる障がい者スポーツセンター

（5つのコンセプト）

- ◇ 障がいのある人がいつ一人で来ても、安心してスポーツや文化活動を楽しむ事ができる
- ◇ スポーツや文化活動を通じて、障がいのある人となない人とが交流できる
- ◇ みんなでつくり、ささえあい、はぐくむことができる
- ◇ デジタル技術も活用し、質の高いサービスを提供する
- ◇ 環境に配慮しながら、持続可能な施設マネジメントを推進する

第2章 敷地条件等の整理

- 整備場所は、基本構想に基づき、現在の長居障がい者スポーツセンターの南側とします。（右図参照）

※ 地図は「マップナビおおさか」より

 現在の長居SC

【住所】

大阪市東住吉区長居公園

 整備場所

【交通アクセス】

Osaka Metro御堂筋線「長居」駅下車、1号出入口から徒歩約1分
JR阪和線「長居」駅下車、出入口から東へ徒歩約3分
大阪シティバス・いまざとライナー「地下鉄長居」下車、北へ徒歩約3分



- 敷地条件等の整理に当たり、敷地の測量、樹木の現況調査、工作物・設備の現状把握、地盤調査、土壌汚染調査等を実施しました。

第3章 建築計画

■ 建築計画の考え方

- 基本計画では、次の4つを重点的な柱とする建築計画とします。

機能向上

これまでのサービスは踏襲しつつ、様々なニーズへの対応や、DXの推進、ささえる活動を担う人材育成など、ハード・ソフト両面にわたって機能向上が図られる建築計画とします。

ユニバーサルデザインの追求

様々な障がい特性やSOGIESCに配慮し、さらには介助する人など、誰もが安全で安心かつ快適に利用できる施設として、ユニバーサルデザインを追求した建築計画とします。

長居公園の立地・ポテンシャルを活かした相乗効果の発揮と緑との調和

施設の整備から跡地整備まで全体を通して、景観に配慮し、公園の緑との調和を重視するとともに、立地、ポテンシャルを活かし、交流の促進など、施設と公園の相乗効果を発揮できるような建築計画とします。

環境への配慮

ゼロカーボンおおさかの実現に貢献するため、グリーンとデジタル技術などの活用により、ZEB Oriented 相当以上の水準を確保し、環境に配慮した建築計画とします。

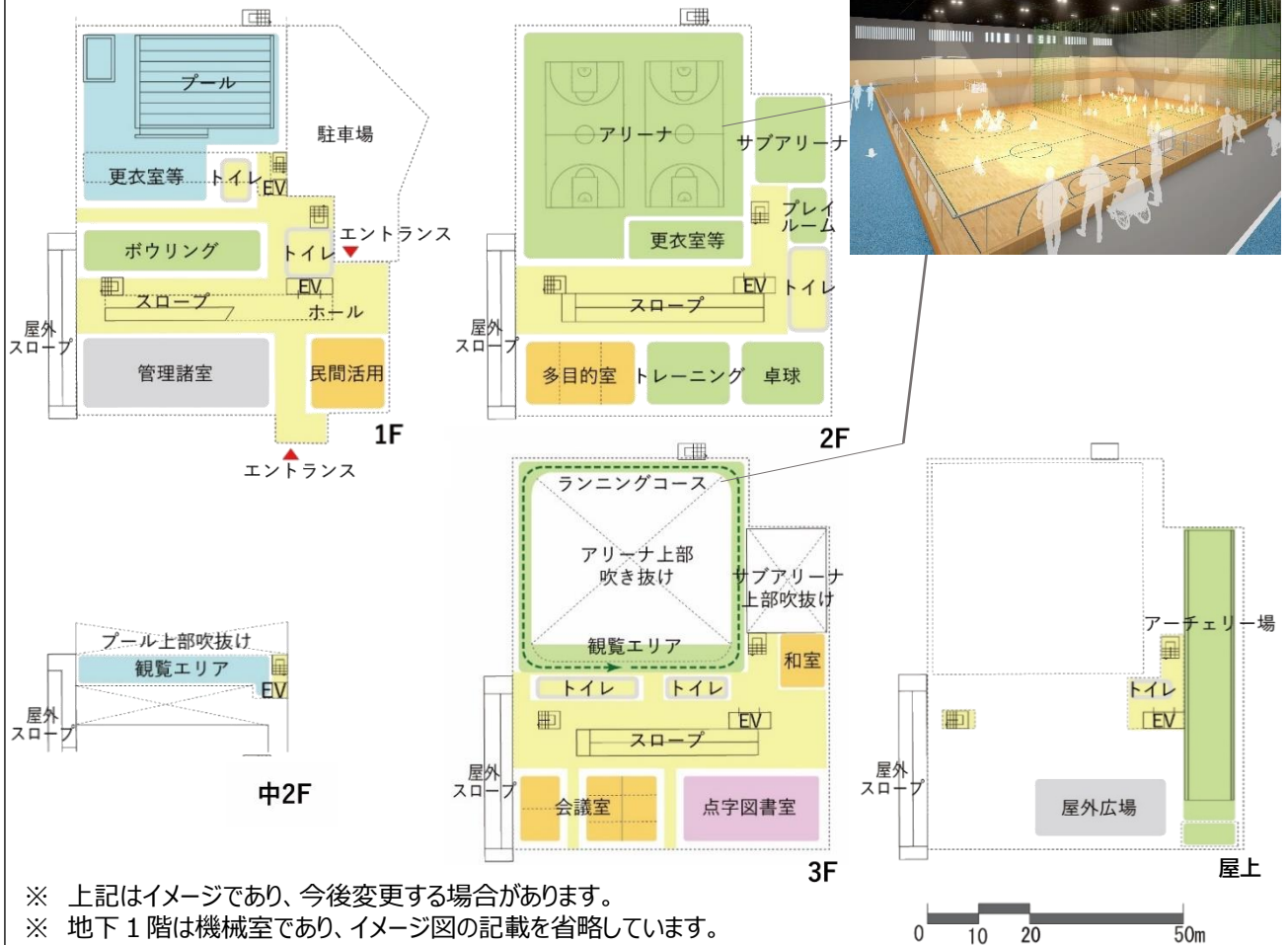
■ 施設・配置計画等

- 基本構想で示した建築モデル案と配置イメージのもと、効率的な整備・運営とするため、3つの施設・配置イメージを作成し、利用者の意見等を参考にしながら、最適な施設・配置計画を選定しました。その概要は下表のとおりです。

名称	新たな長居障がい者スポーツセンター（仮称）		
規模	地上 3 階、屋上階、地下 1 階		
面積	敷地面積	建築面積	延床面積
	11,600㎡	5,100㎡	12,990㎡
指定建蔽率／指定容積率	80％／200％		
整備費用	100億円程度 ※ 整備費用については概算であり、最近の物価上昇を踏まえ、相当の幅をもって見る必要があります。 ※ 既存施設の解体費、跡地整備費等は今後精査するため、上記の整備費用には含んでいません。		
主な諸室・諸元	アリーナエリア	会議室・多目的室エリア	
	アリーナ（バスケットボールコート 2 面）、更衣室、観覧エリア、ランニングコース など	会議室、和室、多目的室	
	プールエリア	点字図書室エリア	
	プール（25m×8 コース）、浅型プール、採暖室、更衣室、観覧エリア など	今後、ボランティアグループの意見を聴取したうえで、録音室などの必要な機能を検討	
	その他スポーツエリア	その他・屋外エリア	
	トレーニング室、卓球室、ボウリング室、サブアリーナ、プレイルーム	屋外エリア（アーチェリー場、屋外広場）、民間活用スペースエリア など	
その他	その他、敷地整備、外装・内装、構造、設備等に関する各種計画を作成しました。		

※ 今後実施する予定の設計の過程において、内容を変更する場合があります。

敷地計画図・平面計画図・イメージパース



■ 跡地等計画

○ 現在の長居障がい者スポーツセンター

緑地の整備を基本とし、具体的な内容は後年度に検討のうえ、公園・緑地等の跡地計画を作成します。

○ 現在の早川福祉会館

当面の間は、継続して保有することを基本とし、これまで果たしてきた役割等を踏まえ、用途転用による具体的な内容は後年度に検討のうえ、施設の活用計画を作成します。

- これら建築計画のもと、細部にわたる検討については、引き続き利用者の意見等を伺いながら、設計を進めていきます。

第4章 事業計画

- 整備・運営に当たっては、様々なPPP/PFI手法の可能性があり、令和6年度に実施予定の「PFI導入可能性調査」に向けて、事業手法に関して事前の検討を行いました。
- 官民の最適な役割分担のもと、効率的・効果的な整備と良質なサービスの提供が図られるよう、市場調査、VFM評価を経て、令和6年度に事業手法を決定します。

第5章 運営計画

- 長居障がい者スポーツセンター、早川福社会館それぞれの現状等を踏まえつつ、新施設の運営を見据え、その取扱い等に関して、事前に整理しておく事項などを洗い出しました。
- 休館日や開館時間、業務内容、実施体制、運営収支など詳細については、今後整備を進める段階に応じて、維持管理・運営計画を作成します。

第6章 整備に向けた今後の課題と整備スケジュール

■ 整備に向けた今後の課題

- 今後の整備を進める過程において、利用者の意見等を伺いながら、設計・施工、維持管理・運営のほか、跡地に関する詳細な検討を行います。
- 引き続き、社会経済情勢を注視しつつ、将来の施設需要を勘案しながら、サービスの向上と経費の縮減とともに、入札・契約の公正性、透明性、競争性の確保に取り組みます。

■ 整備スケジュール

